

日中 EV 市場の形成と普及要因の比較

阿部 碧月

本稿は日本と中国の電気自動車（EV）市場の形成と普及を比較し、両国の市場特性を分析したものである。世界市場の動向を整理した結果、中国メーカーが高いシェアを獲得する一方、日本は非 EV 分野で競争力を維持していることを確認した。中国では補助金やナンバープレート優遇など国家主導の政策により短期間で普及が進んだが、価格競争の激化に伴う持続性の課題もみられる。日本では航続距離や充電時間といった技術面に加え、インフラ整備や補助金制度の不安定さが普及の障壁となり、ハイブリッド車（HV）を経て段階的に EV へ移行する傾向があることがわかった。

これらの比較を通じて、EV の普及は技術のみならず、政策、産業構造、社会的受容といった複数の要因の相互作用によって形成されることが明らかになり、国ごとの選択の違いにも注目すべきことが示された。